

交流集会「放射線看護モデルシラバスの活用に向けて ——モデル授業 その1 放射線の基礎——」

Utilization of a model syllabus of radiological nursing: Part 1. A model lecture on the basis of radiation

西沢 義子¹ 小山内 暢² 野戸 結花²
太田 勝正³ 大森 純子⁴ 堀田 昇吾⁵

Yoshiko NISHIZAWA¹ Minoru OSANAI²
Yuka NOTO² Katsumasa OTA³
Junko OMORI⁴ Shogo HORITA⁵

- 1 弘前医療福祉大学保健学部
- 2 弘前大学大学院保健学研究科
- 3 東都大学沼津ヒューマンケア学部開設準備室
- 4 東北大学大学院医学系研究科
- 5 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部看護学科

- 1 Hirosaki University of Health and Welfare, School of Health Sciences
- 2 Hirosaki University Graduate School of Health Sciences
- 3 Tohto University, Faculty of Human Care at Numazu, Opening Preparation Office
- 4 Tohoku University Graduate School of Medicine
- 5 Faculty of Nursing, Tokyo Health Care University

本交流集会は放射線看護モデルシラバスの活用に向けた第2弾として、看護教員（看護職）の苦手意識が高いとされる放射線の基礎知識や、放射線防護の3原則についてのモデル授業を紹介するために設定した。放射線看護教育に関しては診療放射線技師との連携が重要であることから、診療放射線技師としての臨床経験があり、看護学生を対象とした放射線看護教育の経験が豊富な小山内暢氏（弘前大学大学院保健学研究科・助教）にモデル授業を依頼した。

授業内容は放射線の基礎知識と放射線防護の3原則を中心とするため、通常の講義から該当箇所をピックアップし、①放射線の単位（GyとSv）：吸収線量、等価線量、実効線量の違い、②放射線防護の原則：行為の正当化・防護の最適化・個人の線量限度、外部被ばく低減のための3原則（時間・距離・遮へい）、③医療現場における職業被ばく：ポータブル撮影時における散乱線量やIVRなどにおける水晶体防護とした。

モデル授業紹介の流れとしては、模擬授業、授業に当たって意識していること、学生からの質問や感想、自身の課題についてであった。実際の授業計画・内容を示し、初回の講義で心掛けていることは、学生が放射線に対して苦手意識を持たないようにクイズ形式で知識の確認を行う工夫をしていた。授業で使用する配布資料

は実際の画像を提示したり、写真もたくさん取り入れ視覚的に興味関心を示す工夫が見られた。復習を促すために授業の初めに、前回の授業内容の小テストを実施し、理解度の確認を行っていた。また、「実験してみました！」というタイトルでポータブル X 線撮影時にはなぜ 2m 離れなければならないかをファントムを用い、電離箱式サーベイメータを用いて測定するなど、診療放射線技師ならではの実際の写真を提示しながらの授業紹介であった。

授業で意識していることは苦手意識を少なくするため、「実際の物品を持参／動画を供覧する、双方向性に進行、平易な表現で、画像やイラストをたくさん用いる、反転学習を一部導入、自分の経験／研究成果を交える、資料はカラー印刷で」などと、教育方法に対する多くの示唆が得られた。学生の感想としては「わかりやすく楽しかった、いろいろな物品をさわって楽しかった、資料がカラー印刷でとても見やすい」などのポジティブな感想が多いなかで、スピードが速かった、看護学生として「これは必要なのか？」というネガティブな感想も紹介された。授業時間数が少ないためどこまで深い内容を含めるかという課題も抱えていた。参加者からは大変わかりやすく、今後の授業の参考になったという意見が多かった。学術推進委員会では引き続きモデル授業について紹介していきたい。